

熊本県芦北町における 中学校武道（空手道）必修化への取組

芦北町教育委員会

芦北町は、学習指導要領の改訂により平成24年度から中学校での武道の指導が必修化されたことを受け、全国に先駆けて平成23年度から全中学校で空手道の指導に取り組んでいます。

本町の教育理念「温故創新」（古きを学び知り、生きる力を培い、新しさを創る）を踏まえ、体育担当教員と町職員（空手道有段者）が連携し、2人体制で空手道の指導にあたっており、その内容について紹介します。



1 芦北町の概要

芦北町は、人口約1万9500人で熊本県の南部に位置し、総面積233.81平方キロメートルの約80%に緑豊かな山々が連なる。本町最高の大関山（標高902m）を源とする清らかで豊富な水が不知火海に注いでいます。西方に開けた芦北海岸は天草の島々を望み、県立自然公園指定の美しいリアス式海岸を形成し、温暖な気候は、甘夏みかんやデコボンの産地として知られています。

隣接市町村は、南に津奈木町と水保市、東は球磨川を境に球磨村、北は八代市に隣接しています。交通面では、町を南北に縦断する

る国道3号を主要道路、肥薩おれんじ鉄道を主要交通機関とし、南九州西回り自動車道田浦インターが北の玄関口となっており、現在は芦北インターまで開通しています。

空手道が行われています。

また、町内で行われている武道に目を向けると、小・中学生を中心に柔道、剣道、空手道、相撲が行われています。特に空手道については、毎年のように全国大会や九州大会へ出場し上位入賞を果たす選手を輩出するなど、優秀な指導者の存在が挙げられます。

であることから、形を中心に指導を行うことで、他の武道と比較して事故の発生する危険性を軽減できると考えています。

2 武道必修化で空手道を導入した理由

(1) 指導者の確保

町内の学校は、ピーク時には小中学校合わせて22校ありましたが、少子化の影響で統廃合を経

て、現在は小学校が6校（829人）、中学校が4校（422人）となっています。中学校における武道関係の部活動等については、柔道、剣道、

また、指導者自身も国際大会や国体等への出場経験もあり、選手としての経験、実績も申し分なく、空手道を必修とした大きな要因の一つとなっています。

(2) 指導を行う中での安全面の確保
空手道の中には、形と組手がありますが、授業時間が10時間程度

空手道以外の武道については、施設の整備、畳の購入等に必要経費、剣道については、武道具や備品の購入費、その保管場所の整備等、多額の整備費用を必要とするところですが、空手道の場合は、体育館で実施できる等、新たな施設整備が不要で、しかも体操着で出来ることから導入に要する費用を抑制することが出来ました。

3 中学校における指導状況

(1) 空手道指導に向けての準備

町内の中学校4校の体育担当教員は、各校1人いますが、空手道の

経験がないという状況の中、財団法人日本武道館等が主催する空手道指導者研修会に参加し、空手道



基本動作の指導を受ける生徒



体育教諭による下段受けの指導風景



団体形の発表の様子



約束組手指導の様子

平成24年度 保健体育科年間指導計画 2年 芦北町立 ○○中学校

月	領域の内容 時数	学習内容	基礎基本 観点別評価規準・基準（【言関】言語活動に関する事項）				人権教育の視点
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解	
	武道 ⑧ 空手道	「空手の基本技能（立ち方、突き、受け、蹴り、基本形）を習得する。」 オリエンテーション 空手の歴史、特性 立ち方 閉足、結び、平行、外八 内八立ち 突き技 その場突き 受け技 上段受け 下段受け 蹴り技 前蹴り 基本形 団体形	○礼儀作法を重んじて相手を尊重し、自分で自分を律する態度をとろうとする。 ○自分に適した技を習得し、相手の動きや技に対して攻防や勝敗を競い合う武道の楽しさや喜びを味わおうとする。 A 自他の健康や安全に気を配り、積極的に練習することができる。 B 自他の健康や安全に気を配り、練習することができる。	○基本動作と対人的な技能との関連を図っている。 ○仲間と協力し、考え、教えあいながら、課題の解決に向けた方法を見つけている。 A 自分に適した練習方法を工夫することができる。 B いくつかの方法で習することができる。 【言関】「仲間と交流すること」を踏まえて、課題に応じた活動を選ぶこと。 【言関】仲間と学習する場面で学習した安全上の留意点を当てはめる。	○基本動作と自分の能力に適した対人的な技能で練習することができる。 ○自分の能力に適した対人的な技能のうちから得意技をすることができる。 ○得意技で相手の動きに対応した練習や試合をすることができる。 A 今もっている技能を十分に発揮して試合や練習ができる。 B 今もっている技能を発揮して試合や練習ができる。	○空手道の特性や学習の進め方、基本動作や対人的な技術の構造、自分や相手の課題にあった練習や試合の仕方、練習計画の立て方を知っている。 A 空手道の特性や学び方、技術の構造、合理的な練習の仕方を十分理解している。 B 空手道の特性や学び方、技術の構造、合理的な練習の仕方を理解している。 【言関】仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見つけること。	① ④ ⑤ ⑦

人権教育の視点：①人権尊重 ②豊かな感性 ③科学的・合理的な見方 ④学力の向上 ⑤仲間づくり ⑥自立・実践力 ⑦健康な体づくり ⑧勤労 ⑨国際理解

評価規準AB 【言関】については、10.5ポイント
その他は 12ポイント

4 課題と今後の取組

(1)指導者の育成体制の構築
熊本県内で空手道の指導者研修

会等の開催がないことから、体育(空手道)担当教員に対して技能

授業の実施に向けては、各中学校の体育担当教員と外部指導者が空手道の指導に関して共通認識を

持ちがよい。○団体の形で、キレ、かたちや姿勢に気を付けて、みんなを息を合わせてきれいに決まると気が

(2)武道授業の指導体制
空手道の授業を行う体育担当教員は、経験が浅く、実技の指導等において十分に行えないことが予想されることから、外部の指導者を配置し、チームティーチングの体制を取って指導することとしました。外部指導者としては、町内の空手道道場で、日頃からコーチとして実技指導をしている教育委員会職員を派遣しています。

(3)授業を受けた生徒の声
○空手道は、人を傷つけるものではなく、自分の身を守るものだと聞いて意外だった。
○人を殴ったり、蹴ったりするの

調整 (2)外部指導者の派遣日程の調整
現在、外部指導者として教育委員会職員2名を派遣してはいますが、各中学校で実施する授業が同じ時期にならないよう、実施時期や時間割の調整が必要です。

習得や指導法の研修を継続的に行っていきけるような体制を構築することが重要です。
本町では体育担当教員の配置は各中学校に1名であり、町外の公立中学校で武道に空手道を導入している学校はないため、人事異動で転入された担当教員に対しての研修は必修になります。また、外部指導者とのチームティーチングの体制による指導を行っていますが、外部指導者の勤務状況により派遣できないことも想定されるため、体育担当教員には、さらなる指導力の向上が求められます。



ミットトレーニング (突き技の練習)

(3)団体形の発表会の実施
芦北町の中学校武道の空手道指導において、礼儀作法に始まり、基本動作、基本形を学んだ後に一つの評価の在り方として、学年毎に発表会やトーナメント方式などによる団体形の大会の実施を考えています。大会を実施することにより生徒の目標にもなり、指導者に繋がるものと思われま